

軽度知的障害児に対する国語指導の生徒による授業評価

○佐原 恒一郎

(千葉県立矢切特別支援学校)

KEY WORDS: 知的障害 国語 調査

1. 目的

軽度知的障害児に対する国語指導は電話の応対、手紙の書き方など実学的な実践が多い一方、古典や小説などの文学作品は軽視される傾向がある。しかし、どのような題材であれば軽度知的障害児が意欲的に取り組むかの研究はされていない。

本研究は、一年間の国語授業を生徒が評価することにより、印象に残る授業の傾向について検討するものである。

2. 方法

千葉県内の知的障害者の教育を主とするA特別支援学校の軽度知的障害児で構成される高等部1年生徒9名に対して、年度末にアンケート調査を施した。「A わかりやすかった」「B わかりにくかった」「C おぼえてない」の三者択一と自由記述によった。題材は以下のとおりである。

- ①自己紹介
- ②敬語
- ③俳句 (創作)
- ④徒然草 (62段「延政門院いときなくおはしましける時」)
- ⑤枕草子 (151段「うつくしきもの」)
- ⑥昔のなぞなぞ (母には二つ会いて父には会わず)
- ⑦山梨の作家
- ⑧富岳百景 (太宰治)
- ⑨林間学校の感想文
- ⑩手紙とはがき
- ⑪赤い蝋燭 (新美南吉)
- ⑫植物や動物の音読み・訓読み
- ⑬狐のつかい (新美南吉)
- ⑭四字熟語のテスト
- ⑮校内実習をふりかえって
- ⑯落とした1銭銅貨 (新美南吉)
- ⑰鳥の漢字
- ⑱書道
- ⑲年賀状
- ⑳年末年始の行事
- ㉑履歴書
- ㉒お礼状
- ㉓実習報告会のスライド

3. 結果

結果は表1のとおりである。「A わかりやすかった」が過半数であった場合と「B わかりにくかった」の解答がなかった欄は網掛けをしてある。

「A わかりやすかった」が過半数に達しなかったのは、「⑧富岳百景」「⑰鳥の漢字」「⑳履歴書」で、題材としての共通傾向はない。内容が高度であるか興味を引かない題材であったと推察される。

「B わかりにくかった」の解答がなかったのは、「①自己紹介」「⑨林間学校の感想文」「⑮校内実習をふりかえって」「⑱書道」「㉓実習報告会のスライド」だった。⑨⑮⑳は「実際に体験した内容」という共通の傾向がある。①も自分の出身中学校など具体的な内容である。⑱は通常の座学ではなく、椅子や机を片付けての書き初めであったので印象が強く残

表1 授業評価

授業	A率	B率	C率
①自己紹介	100.0%	0.0%	0.0%
②敬語	77.8%	11.1%	11.1%
③俳句	55.6%	22.2%	11.1%
④徒然草	66.7%	33.3%	0.0%
⑤枕草子	44.4%	55.6%	0.0%
⑥昔のなぞなぞ	66.7%	33.3%	0.0%
⑦山梨の作家	66.7%	33.3%	0.0%
⑧富岳百景	44.4%	55.6%	0.0%
⑨林間学校の感想文	100.0%	0.0%	0.0%
⑩手紙とはがき	77.8%	22.2%	0.0%
⑪赤い蝋燭	77.8%	11.1%	11.1%
⑫植物や動物の音読み・訓読み	66.7%	33.3%	0.0%
⑬狐のつかい	66.7%	33.3%	0.0%
⑭四字熟語のテスト	55.6%	33.3%	11.1%
⑮校内実習をふりかえって	100.0%	0.0%	0.0%
⑯落とした1銭銅貨	66.7%	22.2%	11.1%
⑰鳥の漢字	44.4%	55.6%	0.0%
⑱書道	88.9%	0.0%	11.1%
⑲年賀状	88.9%	11.1%	0.0%
⑳年末年始の行事	66.7%	33.3%	0.0%
㉑履歴書	44.4%	55.6%	0.0%
㉒お礼状	66.7%	22.2%	11.1%
㉓実習報告会のスライド	100.0%	0.0%	0.0%
平均値	71.0%	25.1%	3.4%
A わかりやすかった B わかりにくかった C おぼえてない			

ったと推察される。

自由記述を記述したのは9名中4名だった。「⑩手紙とはがき」で「いつも書いているのちがうけれど覚えたのでよかった。」「ごちゃまぜだった。」など授業で新しい知見を得られたことを示す記述があった。「④徒然草」の内容はなぞなぞであるが「なぞなぞが少し分かりにくかった。字が多いし分からない字があった。」と強い印象を受ける記述、「⑤枕草子」では「はははパパだった」と授業の内容を保持している記述があった。

4. 考察

実体験の振り返りは、経験を伴うため軽度知的障害児にとってわかりやすい題材であることが今回の調査から推察される。一方、興味関心の持ちにくい題材はわかりにくいと評価される傾向にあると推察される。

内容については、古典など一般的に難解と考えられる題材であっても⑤以外は半数以上の生徒は「わかりやすかった」と評価している。これは軽度知的障害児の国語では知的的好奇心を満たす内容が重要であることを示唆している。

軽度知的障害児の国語指導で取り上げる題材は、実学的な内容、小説、言語事項などの内容よりも実体験を元にした内容や知的的好奇心を満たす内容が重要であることが、本研究では示唆された。

(SAHARA Koichiro)